

## 通所リハビリテーションにおけるリハビリテーション サービスのあり方について

### 一介護予防、地域支援事業に関して一

(社)日本理学療法士協会  
(社)日本作業療法士協会  
(一)日本言語聴覚士協会

### 現状:介護予防、地域支援事業の課題

- 短期的な効果は認められている  
しかし、要支援、要介護者の増加している
- 獲得した能力が、生活の中で活かされていないのではないか？
- サービス形態が、ニーズ優先でなく、施設のプログラム優先ではないのか？
- 生活課題に焦点をあてた、取り組みは、要支援、要介護者の縮減に効果があるのではないか？

## 平成20年～平成22年 老人保健増進推進等事業

「生活行為マネジメントを活用した総合サービスモデル  
のあり方研究事業」を通して

対象:通所リハビリテーション参加者

- 介入群:87例  
個別の生活課題(調理、買い物、掃除など)の改善を  
目的に、利用者参加型のアセスメント、プログラム立案、  
実施を行なった。
- 非介入群:86例  
従来の方法で実施

(介入群、非介入群の対象者は、ほぼ、同じ特性)

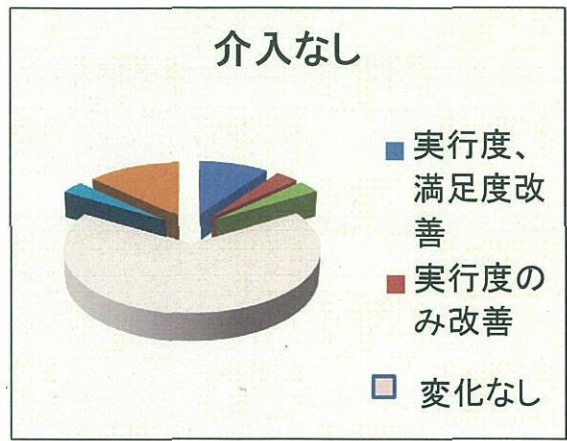
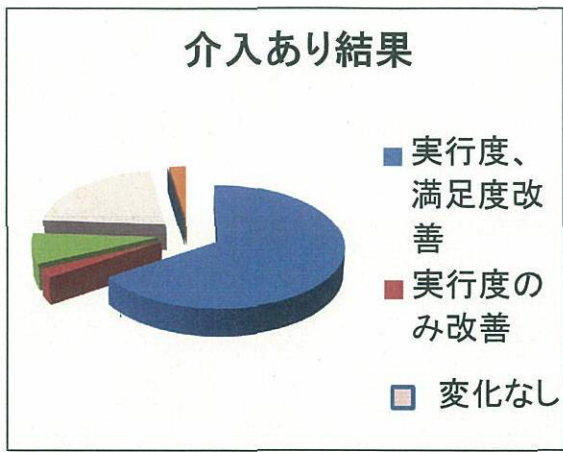
具体的生活課題の改善を中心とした取り組み  
3か月間 介入内容

○ IADLなど生活課題への対応:(55名 70.5%)

種目	料理	買い物	畑	トイレ	洗濯	階段	入浴	外出等
件数	12	5	4	3	3	3	2	1

ADLへの対応(62名 79.5%):歩行、ADLなど

身心機能への対応(72名 92.5%):筋力、関節、座位、立位

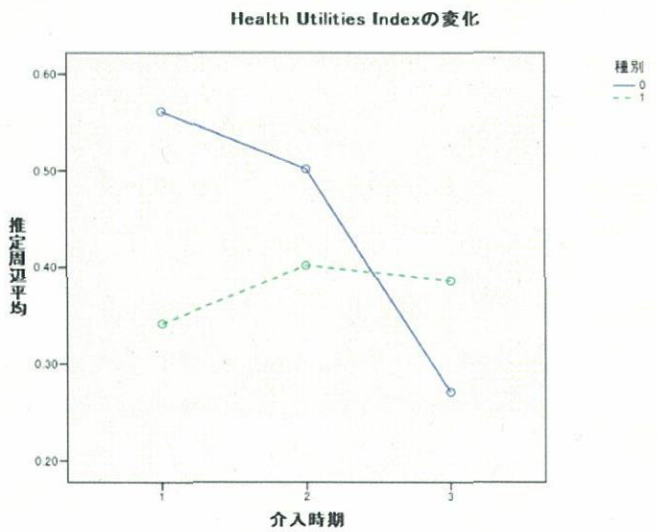
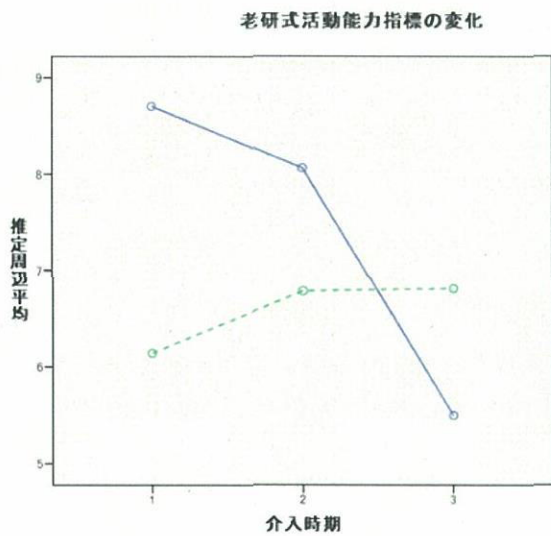


介護認定調査票での改善度	身体・基本	4.2名	(1.6名)
	ADL	3名	(0.8名)
	IADL	5.4名	(1.9名)

老健式活動能力指標  
どの改善度

	改善	維持	悪化	合計
介入	29	36	11	76
	38.1%	47.4%	14.5%	100%
非介入	18	35	23	76
	23.7%	46.0%	30.3%	100%

### 1年後の変化



介入例: 42例    非介入例: 11    介入例、維持している

# 平成21年度介入者へのアンケート調査

(平成22年10月～12月実施)

対象:87名 アンケート回収67名(77%)

昨年実施した 生活課題への 意識	いつも意識	時々意識	あまり意識し ない	まったく意識 しない
	29 (43,3%)	23 (34,3%)	13 (19,4%)	2 (2,9%)

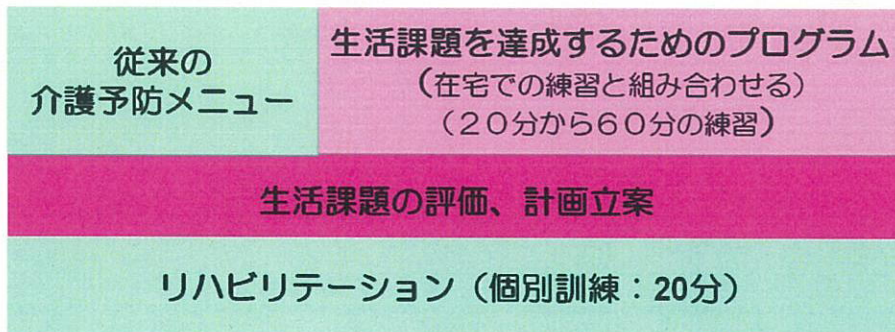
新たな生活課 題への取り組 み:	取り組んでいる	以前は取り組み、 今は無し	取り組んでいない
	28 (41,8%)	8 (11,9%)	31 (46,3%)

1年後の 体の変化	良くなった	少し良い	変わらない	少し悪い	悪い
	5 (7,5%)	17 (25,4%)	37 (55,2%)	7 (10,4%)	1 (1,5%)

1年後の気 持ちの変化	良くなった	少し良い	変わらない	少し悪い	悪い
	3 (4,4%)	24 (35,8%)	35 (52,2%)	4 (5,9%)	0

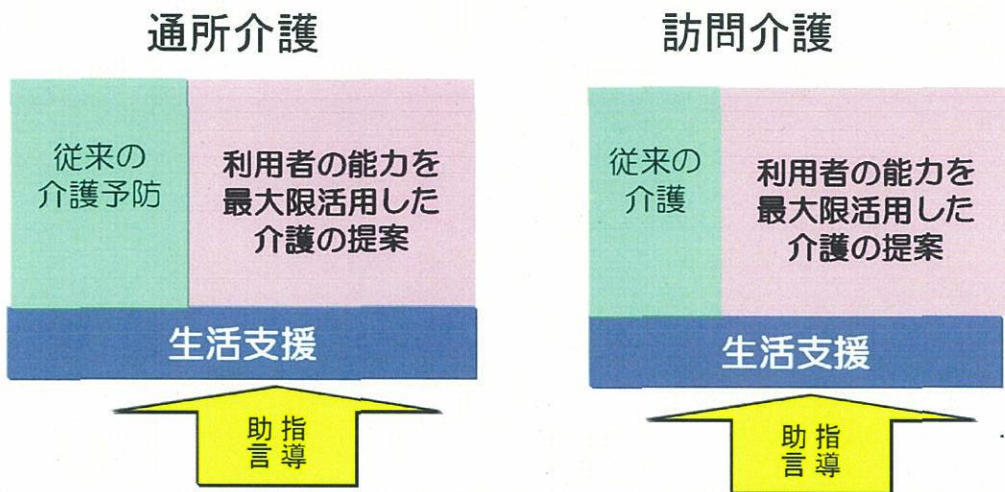
提案 1

## 通所リハビリテーションでの提案



通所リハビリテーションにおいても、**在宅で生活課題(社会適応練習)**の練習が出来る体制の整備をお願いしたい。

**20分1単位から3単位**まで、目的に応じて柔軟な対応が可能な体制



- 訪問介護との連携における自立支援の課題**
- 家事援助を受けている軽度認定者に対し、リハ専門職の専門性が活かされていない。
  - ヘルパーとの同行訪問による支援は効果的である。
  - 出来る能力についての「見きわめ」が大切。

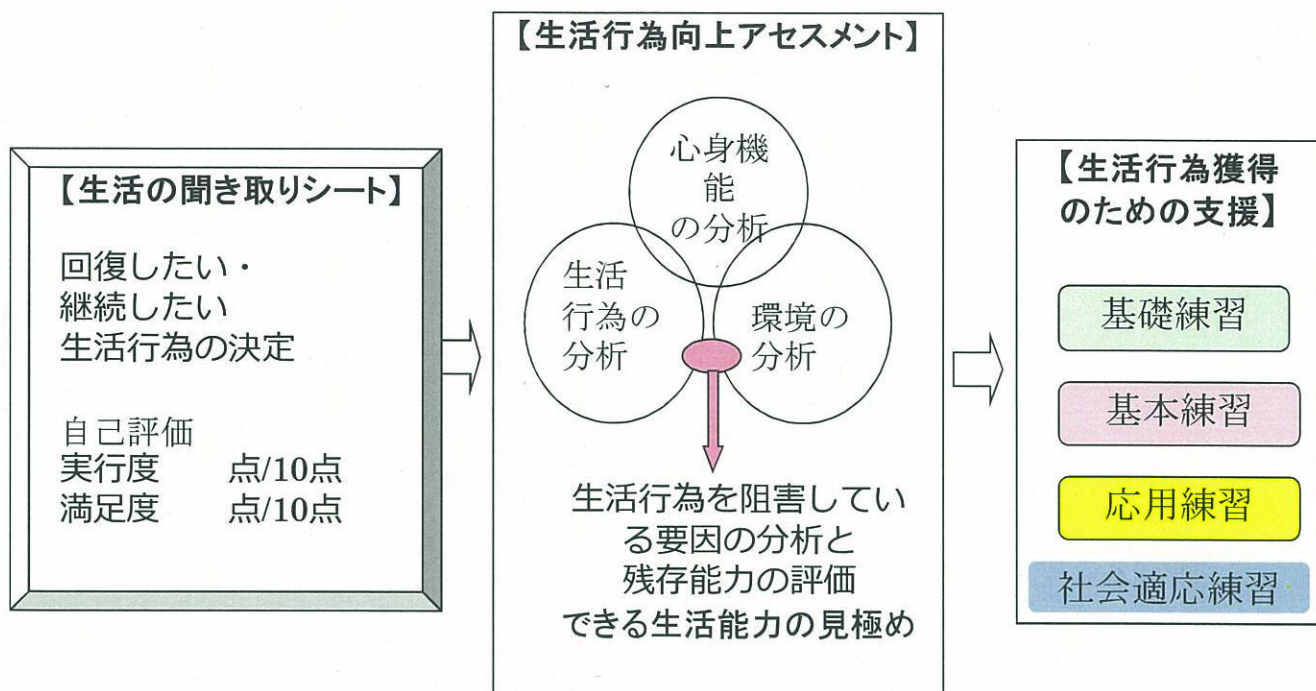
**地域包括支援センターへのリハ専門職の配置促進**

地域支援事業、及び、介護予防事業において、具体的な生活課題の達成に向けた支援を行ない、維持改善を図れる

要介護者の縮減に効果がある



介護保険費用を抑制できる



目標生活行為の種類と内訳

基本的ADL: 15種目

歩行	8
排泄	6
衣服の着脱	2
階段昇降、入浴、会話など	1

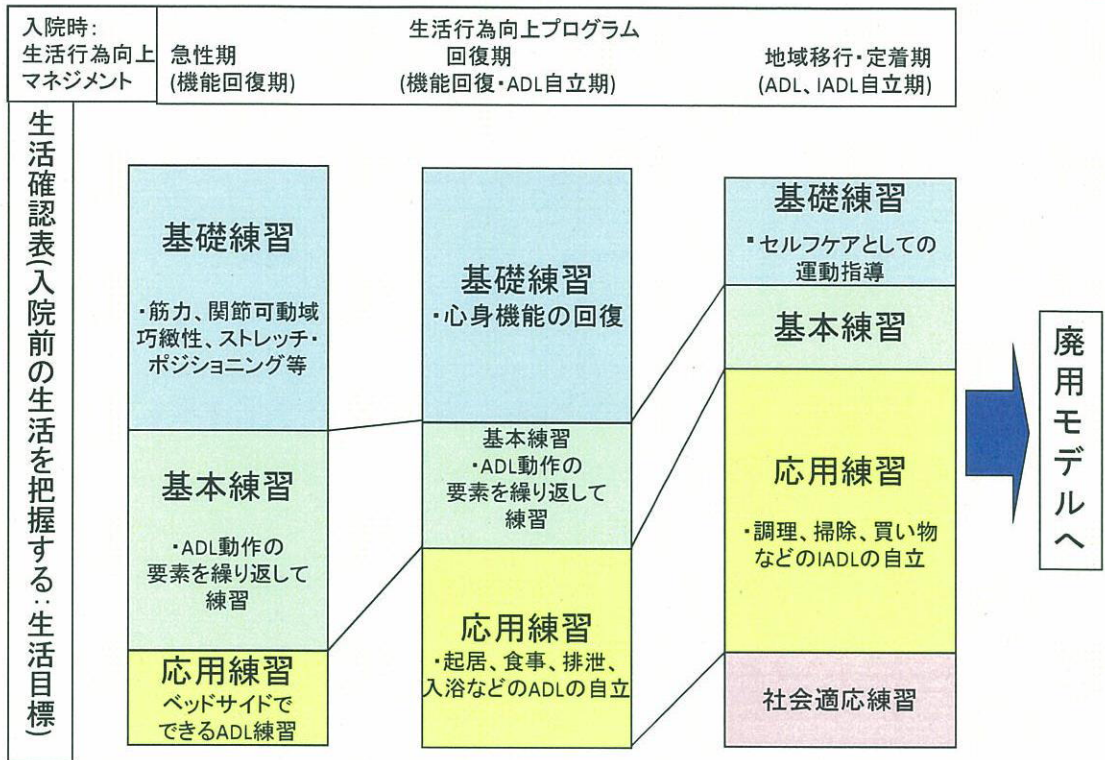
手段的ADL: 30種目

料理	17
買い物、外出	12
犬の散歩	4
植木の手入れ、洗濯、畠仕事、ミシン	3
食事に行く、パソコンなど	2
草むしり、フランス料理を作る など	1

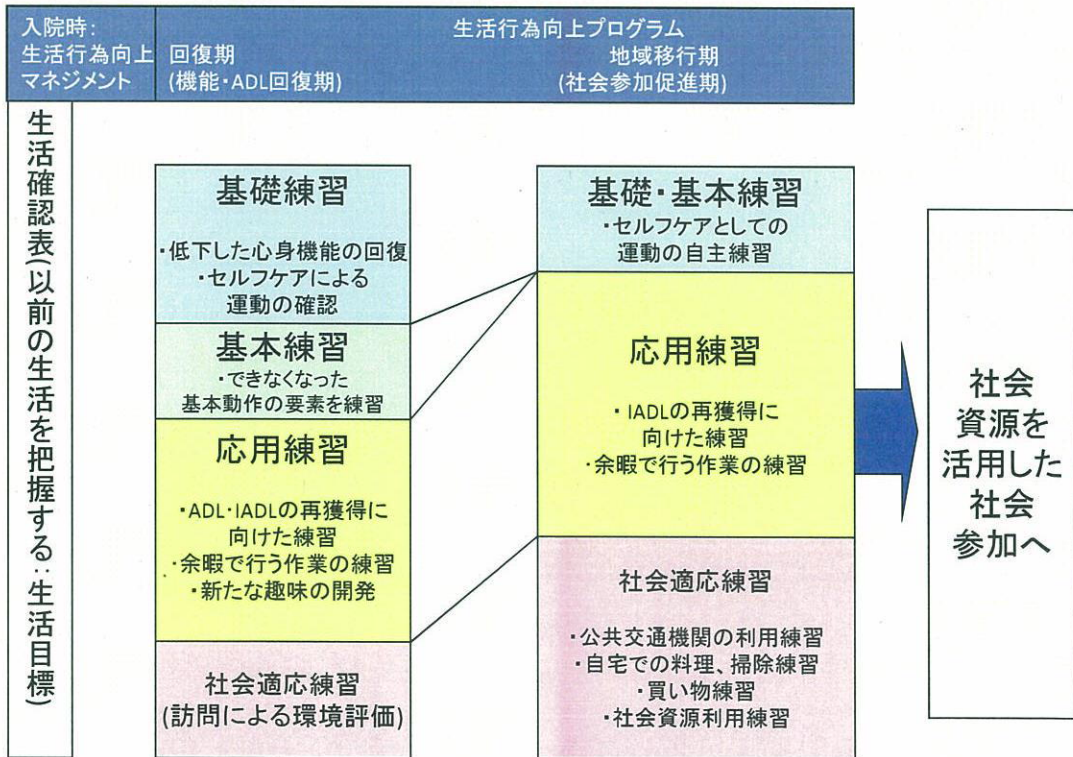
趣味・社会参加: 38種目

散歩	17
旅行	7
書道	6
花の世話、ボランティア	3
カメラ、グランドゴルフ	2
編み物、将棋、囲碁、折り紙、絵画、カラオケ、社交ダンス、日曜大工、同窓会出席、孫に会いに行く	1

# 脳卒中モデル【例】

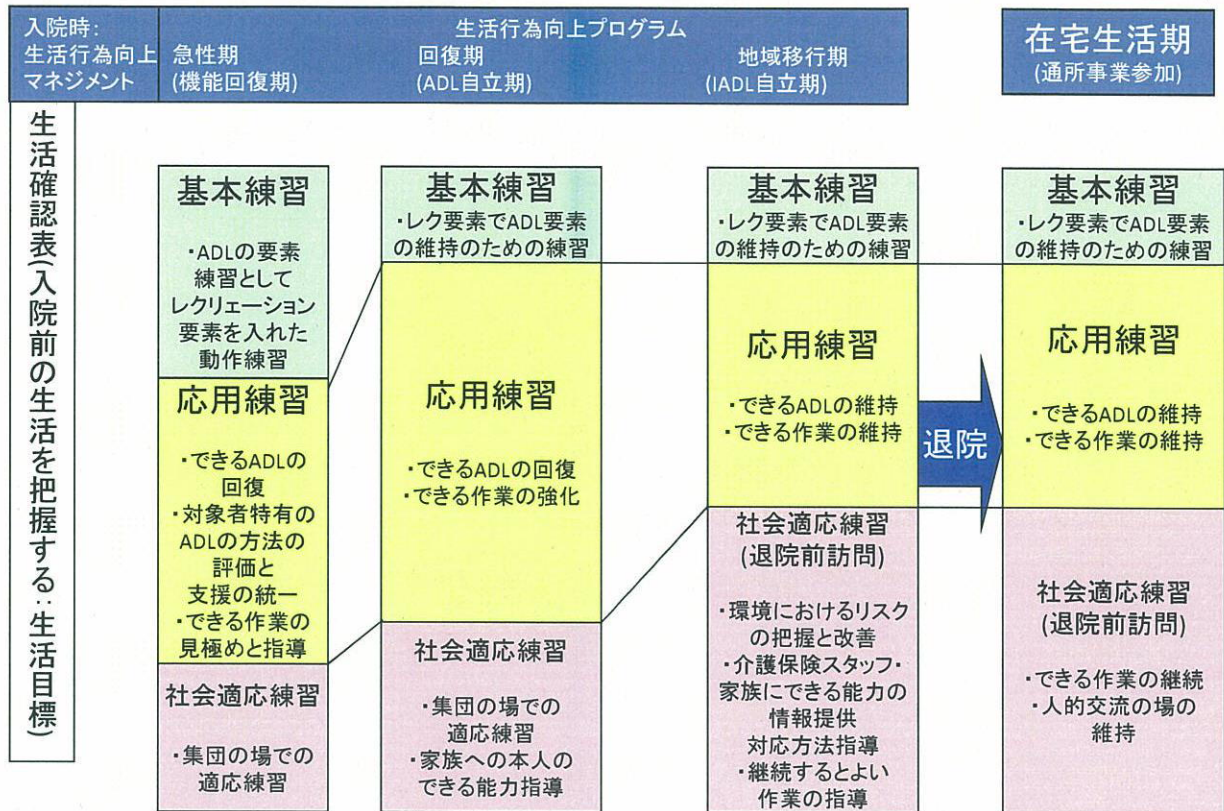


# 廃用症候群事例モデル【例】



# 認知症事例モデル【例】

資料 5



## 介入1年後の変化

資料 6

生活行為向上マネジメントの介入を3ヶ月実施した群を介入群とし、従来の支援を提唱した群を対照群とし、介入1年後対象者の状況を調査した(平成22年度)

### (1) 対象者基本情報

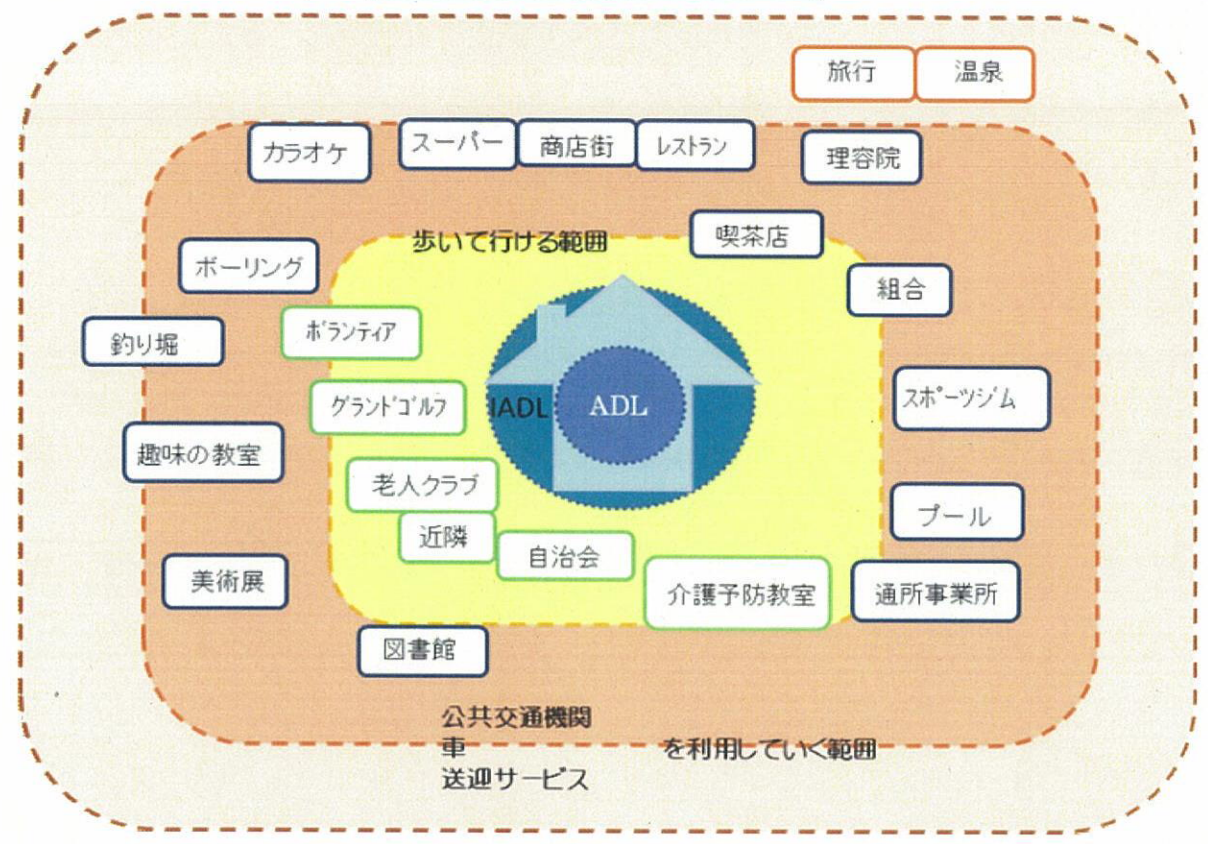
	介入群 (n=42)	対照群 (n=11)
年齢	73.1 ± 9.6	85.1 ± 5.2
性別	男23名 女19名	男4名 女7名

### 介入群において有意に維持 対象群で悪化

	介入 n=42	介入1年後 リハ回数2.1	非介入 N=11	非介入1年後 リハ回数2.2
要支援1	3	3	2	0
2	8	8	4	3
要介護1	5	8	2	4
2	11	11	2	3
3	13	8	1	1
4	0	1	0	0
5	2	0	0	1



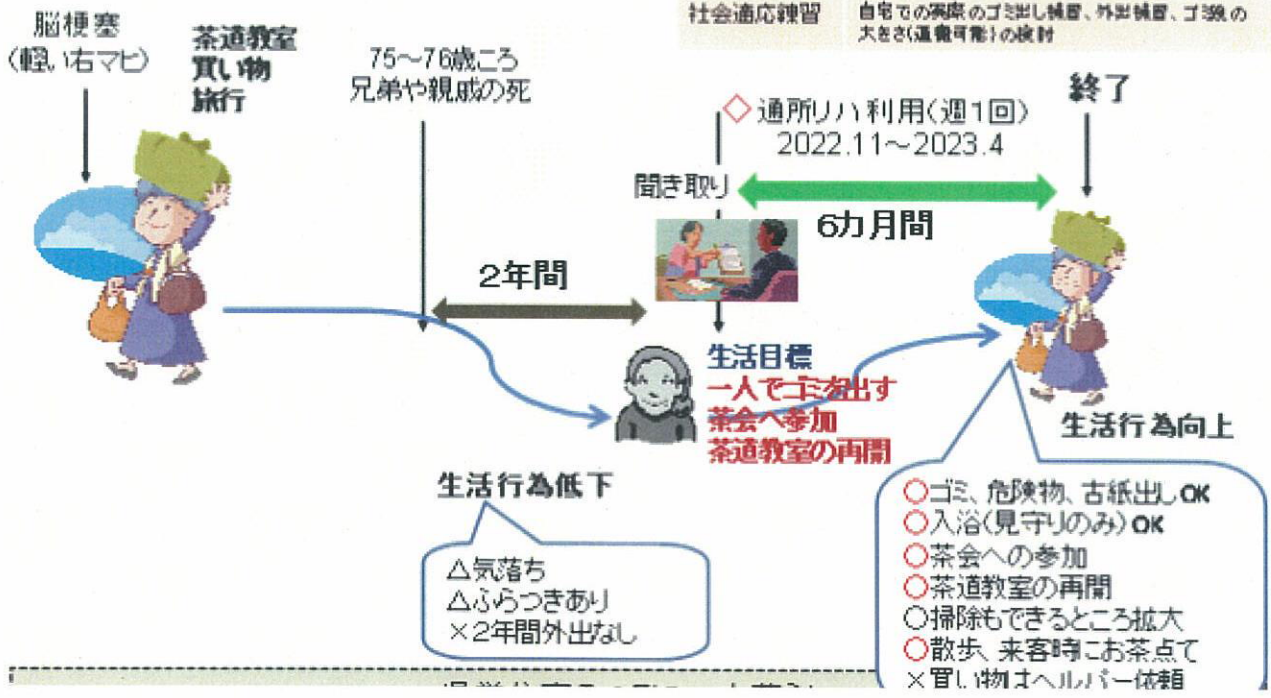
1年後の活動の広がり



6 支援事例の実際

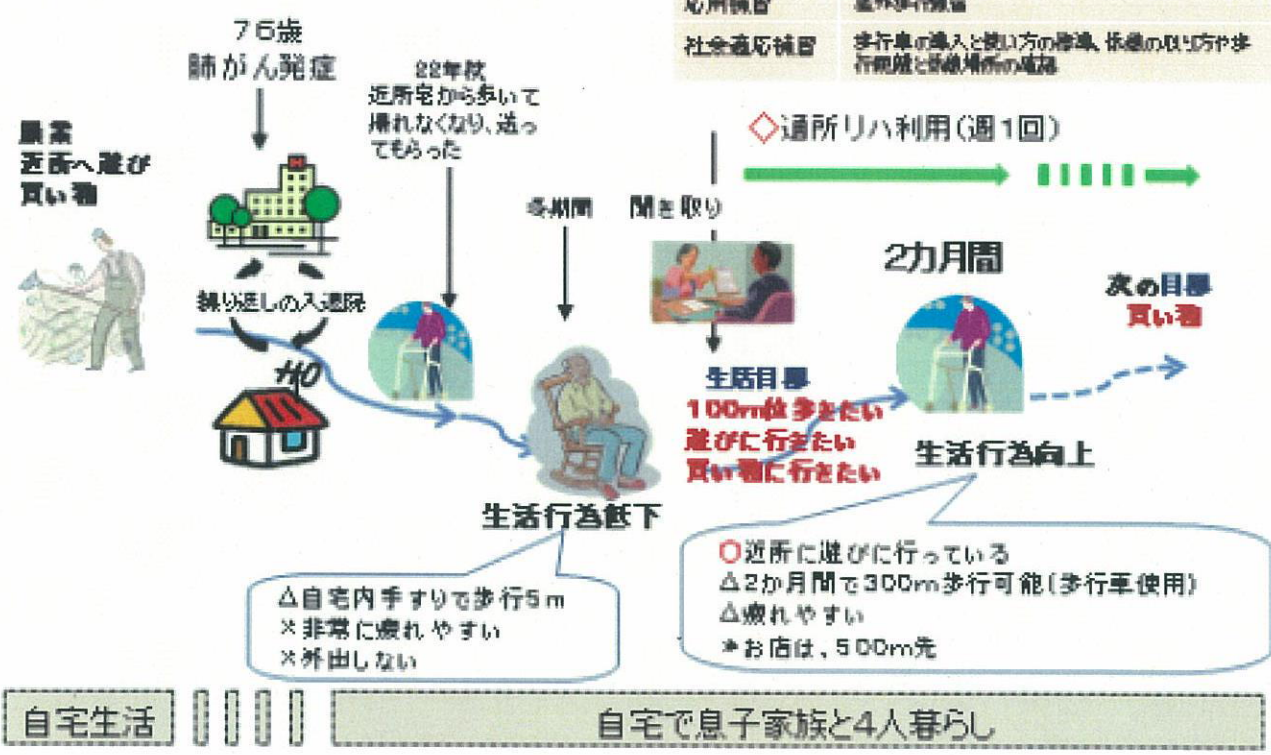
事例 1.  
6カ月間で元気な生活を取り戻した、  
一人暮らししている79歳の女性

通所リハで実施した内容	
基礎練習	筋力トレーニング、バランス練習、他者との交流
基本練習	床からの立ち上がり練習、屋外歩行練習、階段昇降、物の運搬練習
応用練習	ゴミ袋を持つての歩行や階段昇降、お茶入れ
社会適応練習	自宅での実際のゴミ出し練習、外出練習、ゴミ袋の大きさ(運搬可能)の検討



事例2.  
再び、近所に遊びに行くようになった、  
81歳の肺がんの男性

通所リハで実施した内容	
基礎練習	筋力強化、期回体操、世帯ごとの交流
基本練習	床から6m立ち上がり練習、廊下での歩行練習
応用練習	屋外歩行練習
社会適応練習	歩行車の導入と使い方の指導、休日の取り方や歩行距離と歩数増やすの指導



訪問介護におけるリハ職の関与の効果

訪問介護による家事援助を受けている者に対し、作業療法士が生活行為向上マネジメントを実践、ヘルパーに生活行為向上プログラムを助言・指導、訪問介護時にプログラムを週1回、計12回の実践を行った。

(1) 対象者の基本情報

	介入群 (n=19)	対照群 (n=19)	p値
年齢	81.0±5.8才	83.8±4.3才	0.088
性別 (男性/女性)	1名/18名	5名/14名	0.180
要介護度			
要支援1	10名(52.6%)	9名(47.4%)	0.168
要支援2	6名(31.6%)	7名(36.8%)	
要介護1	3名(15.8%)	3名(15.8%)	

## (2) 家事等IADLの評価(Frenchay Activities Index)の変化

家事等IADLの評価では、対照群に比較して介入群に有意な改善が得られた ( $P<0.05$ )。介入群において特に趣味・庭仕事の項目に有意な改善がみられた。

